

2007 年度

科目名 文化財特殊講義Ⅱ（歴史・民俗）B	対象学科・学年 文学部文財3回生	担当者 坪井 恒彦
授業テーマ 遺跡発掘から解き明かされる記紀・万葉集・風土記の世界（前方後円墳の時代）。		
授業の概要と目標 古事記や日本書紀、万葉集やいくつかの国の風土記に描かれる様々な神話・説話・伝承の中には、重大な歴史的事実の断片が埋め込まれている可能性が明らかにされつつあります。とくに、近年の考古学的な遺跡発掘による多彩な調査成果は、この方面における新たな展開を次々にもたらしめています。従来、わずかな限られた文字資料だけで実態のつかみ得なかった古代史の知られざる側面を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。		
評価方法 出席状況と授業中の発表、前期末と後期末の計2回のレポートで評価します。		
テキスト 岩波文庫版『日本書紀2』	著者	出版社 岩波書店
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 「オオビコの活躍」と埼玉稲荷山鉄剣銘文の始祖 2. 同上（課題と考察） 3. 「ヤマトトモモソビメ」と大市の箸墓古墳 4. 同上（課題と考察） 5. 「イクメイリビコの時代」とアメノヒホコ、タジマモリ 6. 同上（課題と考察） 7. 「オキナガタラシヒメ」と「ホムダワケの王朝」 8・同上（課題と考察） 9. 「オホサザキの動向」と海洋民の関係 10. 同上（課題と考察） 11. 「イザホワケ大王」と倭の五王の「讃」 12. 同上（課題と考察） 13・倭王「武」と「ワカタケル大王」の系譜 14. 同上（課題と考察） 15. まとめに替えて		